

さいたま市立浦和博物館館報

あかんさす

VOL. 35-1

通号 第 92 号

ACANTHUS : BULLETIN OF SAITAMA MUNICIPAL URAWA MUSEUM

特別展「綾瀬川—市周辺流域のものがたり—」
の開催について

昨年さいたま市と岩槻市との合併によって、それまでさいたま市の東の市境という印象しかなかった綾瀬川が、市域のやや内側に位置するようになりました。そこで、この綾瀬川の歴史と社会的役割について展示を企画しましたので、以下に紹介します。

なお、展示期間は10月7日(土)から12月3日(日)までです。

展示の構成は、Ⅰ、自然：綾瀬川の位置と流路 Ⅱ、歴史①：周辺の遺跡 Ⅲ、歴史②：江戸時代の治水 Ⅳ、歴史③：江戸との水運 Ⅴ、文化：川と信仰の5部です。

最初の自然では、綾瀬川の流域図を縦180cm横120cmのパネルで表示しています。綾瀬川は、桶川市小針新田付近が起点となり、蓮田市と伊奈町の境を流れ、原市沼川と合流し、その後見沼代用水の上を流れていきます。そして綾瀬川の右岸が上尾市からさいたま市見沼区へ、左岸が蓮田市からさいたま市岩槻区へと進み、見沼区宮ヶ谷塔で支流の深作川と合流します。さらにその先、右岸は見沼区から緑区を経て巖橋を過ぎると川口市へ、左岸は越谷市へと変わります。このように綾瀬川が市境を流れているのは、昔この川が足立郡と埼玉郡の境だった名残です。さいたま市を離れてから川の流れは、草加市、八潮市、足立区をとり葛飾区になります。そして、同区上平井で中

川に合流し、綾瀬川は終点になりますが、中川はそのあと荒川に合流し、東京湾に流れ込みます。現在の綾瀬川の流域面積は176平方キロメートル、流路延長は47キロメートルです。

ちなみに、綾瀬川の名前の由来は、流路が定まらなかったため「あやしの川」といわれたのが川の名前の由来ではないかと言われています。また他説では、川瀬が綾のように入り組んでいたためとも言われます。これらのことを考えると、蛇のようにくねくねした川底の浅い川が、大水のたびに流れを変えていた姿が浮かんできます。

次の周辺の遺跡ですが、綾瀬川に面する高台には多くの遺跡がありますので、縦160cm横120cmのパネルで遺跡分布図を表示し、展示資料としては、川に関連した生活の遺物として縄文時代の土器、土錘や平安時代の鎌などを展示しています。

江戸時代の治水では、縦80cm横120cmのパネルに備前堤が出来る前と後の綾瀬川の流域図を併記してその流れの変遷を表示しています。綾瀬川は荒川（現在の元荒川）の分流でしたが、慶長年間（1596～1615）の伊奈備前守忠次によるいわゆる備前堤により独立しました。この堤の目的は、綾瀬川流域の水害を防ぐことと新田開発でした。しかし一方で、水量の少なくなった綾瀬川は、緩やかな流れにより川床が上昇し、マコモやヨシなどが茂り、さらに流れにくくなったり、水はけが悪

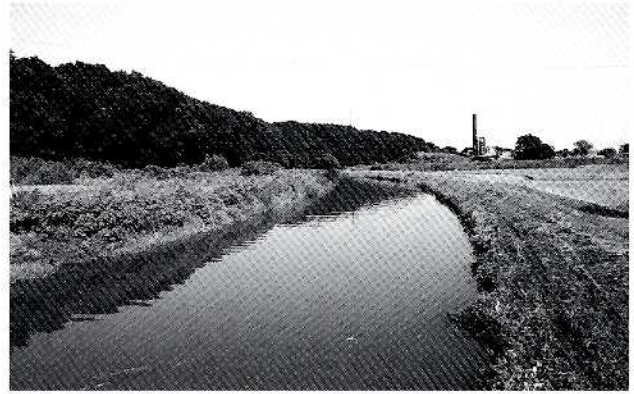
■ 目 次 ■

特別展「綾瀬川—市周辺流域のものがたり—」の開催について	1
行事カレンダー・日誌抄	4





桶川市の綾瀬川起点



岩槻区馬込付近

くなくなりました。また、水を確保するために川に堰を造ったり、橋を架けるため川幅を狭くした場所は、大水のとき水が溜まってしまい作物に影響が出ました。その対策として、川幅の拡幅と藻刈りを行いました。

もう一つ、備前堤そのものが問題となることもありました。備前堤の上郷筋と下郷筋がたびたび対立し、水争いが起きました。それは元荒川が満水時、備前堤が低ければ、水は堤を越えて綾瀬川流域に被害を招きます。逆に堤が高ければ、備前堤がダム役目をし、上郷一帯に水が押し寄せたのです。そのため、大水のとき、堤に土を盛ったり、壊したりとお互い実力行使を行ったこともありました。幕府は堤の高さを田んぼ面から7尺5寸（約2m25cm）とし、御定杭を設置し収めようとしてきました。

資料としては、綾瀬川の治水に関する絵図や文書を展示しました。江戸時代の絵図は、綾瀬川、天久保用水と伝右川の3河川が青で描かれていますが、綾瀬川がほかの2川に比べ極端に蛇行して描かれていて、綾瀬川の特徴がよく出ています。ほかに文化五年（1808）の綾瀬川の普請の幕府への要望書、宝暦五年の藻刈・川幅拡幅の膝子村等の同意書があります。

江戸との水運では、最初に縦160cm横120cmのパネルで綾瀬川のかつての河岸場、渡船場の分布図を、次に水運についての解説パネルを展示しています。

水運についての解説パネルの概要は次のとおりです。

徳川幕府の河川管理及び河川の整備は、単に治水のためだけではなく、江戸を中心とする運輸体制の確保のためでもありました。そして水運は、幕府及び諸藩の年貢米輸送手段として整備されました。各河川を通じて集められた年貢米は浅草蔵前で陸揚げされ、幕府直轄地の年貢は蔵前の米蔵

に納められ、諸藩の年貢米は指定された蔵屋敷または江戸屋敷に搬入されました。

これらの年貢米の集積場所として、各河川の河岸はその重要性を増しましたが、綾瀬川の河岸として現在記録が残されている40の河岸のうち江戸時代に造られたものは19を数えます。また、この「河岸（かし）」という名称は、近世以後の言葉であり、中世以前は「津（つ）」とよばれていました。一般的に「河岸」の意味は、「川舟の港」でした。

さいたま市内の綾瀬川の河岸の発展は、延宝八年（1680）綾瀬川下流の小菅村（現足立区）から隅田村（現墨田区）の古隅田川合流地点までが直道になり、また川をせき止めて用水を引くことが禁止され、岩槻までの舟運が可能となったことによります。そのため、綾瀬川の水運は直接江戸に往復できるようになりその盛況をみました。また、この水運に対応するため天和元年（1681）に関東代官伊奈半十郎により綾瀬川の藻刈りが命じられ綾瀬川流域150か村による藻刈り組合が成立しました。これは綾瀬川の排水能力向上と水運管理上の措置と推測されます。

当時の船の航行は、下流に下るときは川の流れと棹の力で進めましたが、遡るときは上げ潮を利用し、風のあるときは帆で進みました。江戸の日本橋から千住を通り草加の松原までは上げ潮に乗って自力で航行できましたが、その先は人が船に綱をつけ川に沿って曳いたといえます。

江戸時代も中期以降になると、農村への貨幣経済の浸透とともに年貢米の輸送のみならず商品としての様々な物資の流通が盛んになり、その集積地としての河岸の役割が重要になってきました。流域の人々にとって、江戸との商品経済を支え、日常生活に密着した水運を綾瀬川は担ってきました。

このように江戸時代に盛況をみた綾瀬川水運





緑区大門の堰橋付近

も、明治に入って河岸が自由に営業できるようになると、一時盛運をみましたが、全体的に河岸の営業は昭和初期までであり、以後は鉄道や陸上運輸へ転換していきました。そのような中で例外的に肥船の船着場は化学肥料が普及する昭和30年代まで使われました。

現在市内の河岸場などは、近年までの度重なる河川改修により埋め立てなどがなされ、舟運に関する遺構はなく、その跡を偲ばせるものは残されていません。

水運についての以上のパネルの後に、河岸場の写真とキャプションを展示しています。ここでは市内9箇所の河岸場を取り上げました。①風間河岸〔見沼区深作5丁目風間橋付近〕は、天明五年(1785)頃にはあったと思われませんが、詳しいことは解りません。②新河岸(加倉河岸)〔岩槻区加倉3丁目大橋付近〕は、江戸時代の資料には見当たらず、明治になって造られたと思われます。③簀の子河岸〔見沼区宮ヶ谷塔古簀の子河岸付近〕は、綾瀬川と深作川の合流点に造られた河岸場で、すぐ近くを日光御成道が通り交通の要衝でした。安永二年(1773)に造られ、明治になっても東京と近傍村落を結びつける商品流通路の結節点として無視しえぬ役割を果たしていました。ちなみに、明治の「武蔵国郡村誌」には、荷船(60石積み)7艘、小船23艘とあります。④妙見河岸〔岩槻区横根妙見橋付近〕は元治元年(1864)の文書に記述があり、同「武蔵国郡村誌」の横根村の箇所に「荷積船5艘(32石積み1、12石積み1、6石8斗積み2、5石2斗積み1)」の記述があります。⑤戸井河岸〔緑区高畑戸井橋付近〕は昭和10年頃まで使われていたようですが、現在は、河川改修の結果新しい戸井橋がかかり、その上を高畑陸橋が通っています。⑥佐助河岸〔岩槻区笹久保新田戸井橋やや下流〕は、明治になって造られました。⑦尾ヶ崎河岸(新河岸)〔岩槻区尾ヶ崎



水神宮石祠(岩槻区横根)

新田新川岸橋付近〕は、この近辺の野菜を出荷品として、文政十二年(1829)に造られました。⑧下野田河岸〔緑区下野田国道463号バイパス浦岩橋やや上流〕は、明治になって造られました。⑨堰河岸(大門河岸)〔緑区大門・川口市東川口5丁目堰橋付近〕は、江戸時代の「新編武蔵風土記稿」によると、延宝年中(1673~1681)に江戸に物資を運ぶために造られたと考えられます。この河岸は、日光御成道に面した宿場町として栄えていた足立郡の大門宿にあり、大門河岸ともいい江戸時代は近郷から集積した米を搬出していました。

河岸場の写真の後に、河岸場の船の数などが記載された江戸時代の文書を資料として展示しています。

最後の「川と信仰」では、縦160cm横120cmのパネルで綾瀬川流域に残る主な水の神を写真で展示しています。これらは、水神、水天宮、金毘羅神社そして弁財天などがあります。水神は水にまつわる神の総称です。石祠には、水神とか水神宮という名称が一番多く、また水神が具象化する場合は、蛇が多いです。石祠の中には、水死者の慰霊のために建立したものや、綾瀬川の平穏な流れ、円滑な水利を願って建立したものなどの伝承が残っているものもあります。水天宮は、江戸時代に婦女の間でお産の神として流行しました。もともとは、川のほとりに祀られる水神です。金毘羅神社は、一般に航海の安全を守る神として知られています。漁師は豊漁を祈願し、農村でも農神や水神として信仰されることがあります。弁財天は、水神の次に多く、もともとは、インド神話に出てくる河川神で音楽や知恵の神でもあります。仏教とともに伝来し、近世以降七福神信仰で親しまれるようになりました。

以上が、特別展「綾瀬川一市周辺流域のものがたり」の概略です。(M)



行事カレンダー 開館時間 9時～16時30分

☆特別展

「綾瀬川―市周辺流域のものがたり―」

会期 10月7日(土)から12月3日(日)まで
内容 市の東部を流れる綾瀬川は、かつて水運が盛んで、流域に河岸場も造られました。本展示は、綾瀬川の歴史と文化を紹介します。

☆特別展関連文化講座

「さいたまと江戸を結ぶ水運」

会期 12月3日(日) 14時から15時30分まで
講師 川名 登 氏(千葉経済大学名誉教授・利根川文化研究会名誉会長)
参加費 無料
内容 綾瀬川や見沼代用水などの水運が、盛んだったところの話。

申し込み方法など詳しくは当館まで

☆企画展「ちょっと昔のくらしの道具展」

会期 12月9日(土)から平成19年4月15日(日)まで
内容 今の小学生の父母・祖父母が、子供のころに使った道具の変化を展示。小学3年生の社会科昔の暮らし参考

☆定例探鳥会〈毎月第3日曜日開催〉

(雨天中止)

会期 10月15日(日)・11月19日(日)・12月17日(日)
 1月21日(日)・2月18日(日)・3月18日(日)
 9時から12時(9時に当館集合)
参加費 中学生以下50円、高校生以上100円

日誌抄 (平成18年4月から9月まで)

4/1(土) 団体見学1団体
 4/8(土) 団体見学1団体
 4/14(金) 団体見学1団体
 4/16(日) 定例探鳥会
 4/25(火) 三室小6年見学
 4/26(水) 第1回博物館協議会(市立博物館)
 5/7(日) 企画展「ふるさとの遺産―緑区の文化財―」終了
 5/8(月)～12(金) 展示替による休館(企画展→常設展)
 5/13(土) 常設展開催
 5/21(日) 定例探鳥会
 5/31(水) 埼玉県博物館連絡協議会総会・見学会(埼玉県歴史と民俗の博物館)
 6/2(金) 資料寄贈2件
 6/8(木) 三室小2年見学
 6/10(土) 親子探鳥会
 6/16(金) 団体見学2団体
 6/18(日) 定例探鳥会
 6/24(金) 資料貸出1件
 7/9(日) 常設展終了
 7/10(月)～14(金) 展示替による休館(常設展→夏休み企画展)
 7/14(木) 資料貸出1件
 7/15(土) 企画展「夏休み子ども博物館」開催
 7/16(日) 定例探鳥会

7/16(日)～29(土) 博物館実習生の受け入れ(7名)
 7/18(火) 埼玉県博物館連絡協議会前期研究会(埼玉県歴史と民俗の博物館)
 7/20(木)～23(日) 昔のおそび(体験教室)
 7/21(金)～22(土) 中学生職場体験(明の星中3年)
 7/22(土) おもちゃ作り(体験教室)
 7/23(日) クイズ大会(体験教室)
 7/25(火)～28(金) 中学生職場体験(本太中1年)
 8/1(火)～9/3(日) 文化財さがし
 8/2(水) 第2回博物館協議会(市立博物館)
 8/11(金) 団体見学1団体
 8/20(日) 定例探鳥会
 8/21(月) 資料寄贈1件
 9/3(日) 夏休み企画展終了
 9/4(月)～7(金) 展示替による休館(企画展→常設展)
 9/8(金) 常設展開催
 8/17(日) 定例探鳥会・団体見学1団体
 9/27(木) 特別展用資料借入 10件
 9/28(金) 特別展用資料借入 7件

さいたま市立浦和博物館館報 あかんさす No.92
 編集・発行 さいたま市立浦和博物館
 〒336-0911 さいたま市緑区三室2458番地
 TEL・FAX 048-874-3960
 発行日 平成18年9月30日
 ホームページ <http://www.city.saitama.jp>
 E-mail urawa-museum@city.saitama.lg.jp

